

脊椎・脊髄センター開設

室蘭市知利別町の製鉄記念室蘭病院（松木高雪院長）は1日、専門外来「脊椎・脊髄センター」を開設した。最新鋭の術中モバイルCT（コンピューター断層撮影装置）と、最新式のコンピューターナビゲーションを活用した低侵襲脊椎手術についても積極的に進める方針。また、同センター開設に合わせて、香港の医師が実地研修で来蘭。脊椎外科研修病院としての役割も果たしている。（松岡秀宜）



松木院長（左）と懇談する実地研修に訪れたウォン医師（中央）と、「脊椎・脊髄センター」開設をあらためて説明する小谷副院長

実地研修の役割も

製鉄記念室蘭病院

脊椎・脊髄センターは、脊椎すべり症や脊椎靱帯骨化症に代表される背骨の変形や脊椎腫瘍など、これまでは整形外科医が診療した脊椎・脊髄の専門診療体制を充実させた上で、手術などが必要な患者について、専門医による的確な診察を目的に設けた。

センター長は、小谷善久副院長・整形外科長（日本脊椎脊髄病学会評議員・指導医）。毎週水曜日の午前中に診察する。受診するためには、他病院や医院の紹介状が、製鉄記念室蘭病院整形外科での初診が必要という。

同病院は今年6月、同センター開設に先駆けて、日本メドトロニック社（本社東京都港区）製の術中モバイルCTと、コンピューターナビゲーションを北海道・東北地区では初導入した。

これらのシステムでは①手術中に術野の透視画像や3次元画像の撮影が可能②撮影画像についてはコンピューターナビゲーションへの即時転送が可能③術前と術中の患部比較もリアルタイムで容易に進められるという。

このため、ポータブルレン

トゲン（エックス線）撮影装置を活用した手術と比べて、「極めて高精度に患部を把握でき、より安全で確実な手術ができる」（小谷副院長）という。

同センターでは、発達が目覚ましい最新の脊椎低侵襲手術による脊椎固定術をはじめ、側彎や後彎などの重度脊柱変形の矯正術、脊椎腫瘍や骨粗しょう症性の脊椎疾患などの治療に力を入れる考え。

一方、同病院では、「短期から中期脊椎外科研修病院として、脊椎を学びたい医師を積極的に受け入れたい」としており、早速、香港のウォン・ジョン・ヒン医師（35）が来蘭。「低侵襲脊椎手術の技術を香港で生かしたい」と話すウォン医師は、年内いっぱい、病棟や手術室主体の実地研修を行う予定だ。

小谷副院長は、「胆振の地域医療の拠点病院としての責任を果たしながら、若手医師の育成など、脊椎・脊髄病医療の全国的な拠点病院としても、機能していくように努力したい」と話している。